



もくじ

1. 特集 マツの話
2. 第 8 回活動 ~竹切り・枝打ち・成長測定など~ の報告
3. 第 1 回定例活動シカ防護柵設置・成長測定・植え付けのご案内
4. 第 2 回定例活動春の一般公開のご案内

総会も無事終了し、来年度は「千葉演習林ボランティア会 Abies (アビエス: モミの学名)」と新たな名前と体制で出発します。この千葉演習林ボランティア通信も最終回となります。1 年の間ありがとうございました。

マツの話

一口にマツと言っても、マツ科マツ属には世界で約 100 種もあり、日本では 8 種があります。外国には 3 枚の葉を持つものもありますが、日本のマツは葉の枚数が 2 枚の二葉松と 5 枚の五葉松のいずれかになります。千葉演習林には二葉松のアカマツ・クロマツ、五葉松のヒメコマツがあります。

アカマツ・クロマツが至るところで立ち枯れているのが見られます。この原因である「マツノザイセンチュウ」という線虫は、もとはアメリカ、カナダに分布していましたが、現地のマツはザイセンチュウに対して抵抗性があるために広く流行しませんでした。それが日本に入り、「マツノマダラカミキリ」に運ばれることにより、抵抗性のない日本のマツを九州からどんどん枯らしていき、今では被害のない都道府県が青森県と北海道だけになってしまいました。この線虫はわずか 1mm 以下ですが、マツに侵入すると早く数週間で木全体に繁殖してマツを枯らしてしまいます。

千葉演習林では、周りは枯れているのに枯れないで残っているマツがあることに気づきました。そのマツにザイセンチュウを接種し、それでも枯れないものを抵抗性があるものとし、接ぎ木で増やして、昭和 58 年に武者土(むしゃど)という場所に*採種園(さいしゅえん)を作りました。そこで採れた種子から抵抗性マツの苗を作り、全国にも発送しています。



抵抗性マツの苗木(郷台)

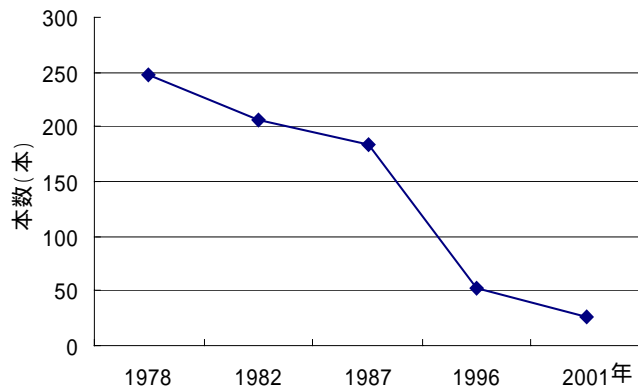
*採種園(さいしゅえん)・・・遺伝的に優れた種子をとる目的のために、良い性質を持つ樹木を混ぜて植え品質の良い種子を多く採りやすいような形に育てた樹木が植えられた場所のこと。他から花粉がなるべく飛んでこない場所を選ぶ必要がある。接ぎ木を行うことで、実が成り始める時期が早まるという利点もある。枝を大きく横に張らせ高さを抑えることで種を採る作業を効率よくできる。

房総半島には現在ヒメコマツ成木が約 80 本生存しています。このヒメコマツは過去の寒冷期(18,000~20,000年前)の生き残りとして、房総半島の地誌的、植物地理学的観点から極めて貴重な植物です。

千葉演習林では、1978年にヒメコマツの成木は約 250 本確認されていましたが、松材線虫病、がんしゅ病等により急激に衰退し、現在は 23 本となっています。このように、ヒメコマツの成

木が極端に減少したことから、充実した種子が生産されず、生育環境の悪化と相まって、自然増殖が見込めない状態になっています。このままでは、房総半島のヒメコマツは絶滅の可能性が高いと考えられます。

そこで、千葉演習林では、房総半島に残存生育するヒメコマツを増殖・保存するため、種子を採取して苗を作り、人工的に植栽・管理することや、接ぎ木、組織培養など増殖に関する研究、松材線虫病抵抗性個体の選抜育種、がんしゅ病の防除法などについて研究を行っています。



ヒメコマツの生存木本数の推移



がんしゅ病にかかったヒメコマツ



ヒメコマツ成木

「科学の森ニュース」をご存知ですか？ カラー版(pdf形式)を東京大学科学の森教育研究センター(演習林)のホームページからダウンロードすることができます。(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

千葉演習林ボランティア会第8回活動 ～竹切り・枝打ち・成長測定など～ の報告

ボランティア 石川 輝雄

平成17年1月20日より21日まで、今期最終回の千葉演習林ボランティア活動が行われ参加しました。今回は竹きり、スギ苗の生長測定、枝打ち、除伐、丸太の製材の見学など、今までにない多彩な活動内容ですので、とても楽しみでした。

1日目は清澄作業所に参加者8名が集合し、9時40分に職員の運転する車に分乗して今日の活動場所である「川台(17林班D₂、D₃小班)」に向かいました。よい天気です。札郷トンネルの先の道が少し広がっている場所で車を降りて、今日、指導していただく職員の方々に今日の活動内容、仕事分担、安全注意などの説明を受けました。



に今日の活動内容、仕事分担、安全注意などの説明を受けました。

その後、今日の活動に必要な大鎌と鋸を各々が手に持って、七里川にかかるつり橋を渡って5分程歩き、鹿よけの柵で囲われた背丈ほどのスギ苗が植えてある最初の活動場所の除伐に入りました。傾斜地の下側に各自が5メートル位の間隔をおいてならば、上に向かって、スギ苗の間の木や竹を大鎌で刈る作業です。

この場所は、夏に下草刈りをした所なので、鋸を必要とするほどの竹はないものの、積んである太い竹の間から出た小さな竹や木があることと、小枝自身がかなり硬いので、かなり汗をかきました。

昼食を食べ、隣の同じく鹿よけの柵で囲われたスギ苗が植えてある2番目の活動場所の除伐をしました。こちらも夏に下刈りをした所ですが、スギ苗の高さも最初の活動場所の半分ほどで、苗の間の木や笹も少ししかないので、簡単に終わりました。

次は隣の10年ものぐらいの杉林に移って枝打ちの作業をしました。傾斜地の下側のスギは過去に枝打ちがなされていて顔の高さまでは枝がないので、その上の手が届く範囲の枝を鋸で払っていきます。上側のスギは今まで枝打ちをしたことがないらしく、地面の所



から枝があるので高さの3分の2位を目安に枝をはらいました。

特に上側はこんもりしていたのがすっかり風通しが良くなりました。以上で1日目の作業が終わり、宿舎にもどりました。

2日目、今日も良い天気になりました。9時00分に清澄作業所を出発して昨日と同じ「川台」に向かいました。作業はスギ苗の生長測定です。

職員の大塚さんと相川さんも含めて5人ずつの2グルー



プに別れて鹿の防護柵の内側と外側のスギ苗の生長測定をしました。調査項目は 根際直径、胸高直径、 樹高、 鹿の被害レベルと被害高です。 は輪尺(ノギスの大きなもの)、 は検測桿(長さの目盛りのついた伸縮する棒)を使います。鹿の被害レベルと被害高はいくら見ても良くわからないので、大塚さんをお願いしました。

以上の測定と結果の野帳への記録を分担して行ったので、効率的に作業が進み、昼食をはさんで午後2時頃には測定作業は終了しました。大塚さんが1人でやったのでは効率が悪く、大変なんだとの話があり、役に立てたのだとうれしく思いました。



次は清澄作業所に戻り、LOGOSOLというスウェーデン製の機械による丸太の製材の実演を見学しました。LOGOSOLは丸太の位置を決めるアルミニウムの型枠に、横に移動のできる大形のチェーンソーが取り付けられた構造の機械です。

「川台」から持ってきた直径30cm、長さ1mのヒノキの丸太が簡単に2枚に製材されました。製材面もとてもきれいな仕上げ状態でした。この半割りされた丸太は松戸の保育園で使う遊具の作成に活躍することになるそうです。

以上で今回の作業はすべて、終了し、職員の皆さんと“ふりかえり”を行い解散し、充実した気持ちで帰途につきました。

今回も含め、村川さん、相川さんをはじめ、演習林の職員の皆さんには大変お世話になりました。ボランティアメンバーとして、お礼申し上げます。

来期も参加することを楽しみにしていますが、さらに仲間が増えるといいなと思います。

平成17年度 第1回定例活動のご案内 ～シカ防護柵設置・成長測定・植え付け～

千葉演習林では、新しく植えたスギ・ヒノキ等の苗木の新芽がニホンジカに食べられてしまい、苗木が正常に育たなかったり枯れてしまう被害が問題になっています。そのような被害を受けないよう、学生実習の植え付け予定地にシカ防護柵を設置します。また、シカの好まないイヌマキを植え付け、シカ防護柵の種類ごとに苗の成長測定を行います。

- 日 時** 平成17年 **4月12日(火)～13日(水)**(宿泊、1日のみの参加も可)
- 集 合** 清澄作業所 12日 9:40
- 解 散** 清澄作業所 13日 16:00頃
- 作業場所** 12日 シカ防護柵……………川台17林班 D₅ 小班
13日 植え付け(補植)・南沢45林班 C₁₀₋₁ 小班
成長測定……………池ノ沢22林班 C₁₀₋₃ 小班
- 宿泊場所** 清澄学生宿舎(04-7094-1990)
- 宿泊費** 2,240円(施設使用料540円、夕食900円、朝食400円、昼食400円)
- 持ち物** 1日目の昼食、飲み物、野外活動ができる服装、靴(登山靴などしっかりしたものや地下足袋)、滑り止めつき軍手、タオル、雨具、リュック、敷物、保険証のコピー、常備薬、マイカップ、宿泊用の道具など
- 定 員** 5名程度(申込先着順)
- 雨天時** 番号札作りなどをします。
- 受付期間** 3月19日(土)～3月29日(火)
- 申込方法** 電話、FAX、E-mailのいずれかでお申込下さい。
- キャンセル** なるべく早めに、宿泊の都合のため遅くとも2日前までご連絡下さい。
- 申込、お問い合わせ先**
千葉演習林ボランティア会 Abies
事務局 石川 輝雄 宛
連絡先は活動要項をご覧ください。



平成17年度 第2回定例活動のご案内

～春の一般公開～

新緑の季節、演習林の一部を一般公開します。例年2日間で400～500名の方が来場します。そのため、記帳所で受付を行ったり、公開区間を巡回してマナー指導を行ったりします。

- 日 時** 平成17年 **4月16日** (土) **17日** (日) (日帰り)
- 集 合** 天津事務所 7:10
清澄作業所 7:30
君津市折木沢地先黒滝ゲート手前の加勢林道入口 8:30
のいずれか 遅刻しないようにお越してください。地図は活動要項参照
- 解 散** 黒滝ゲート 16:30 頃、清澄作業所 17:00 頃、天津事務所 17:20 頃
- 内 容** ・受付(入林者に記帳を促す、チラシを配布) ・入林者のカウント
・マナー指導 ・ゴミ拾い など……
- 定 員** 1日あたり4名程度
- 持 ち 物** 昼食、飲み物、会員証(持っている方のみ)、雨具、しっかりした靴、敷物、保険証のコピー、常備薬など
- 雨 天 時** 雨天の場合は入林者が少なくなりますので、職員のみで対応します。天気予報により、ボランティア中止の場合は前日に参加予定者に電話連絡をします。自宅に不在で連絡を受けられない方は、事務局または千葉演習林村川まで直接お問い合わせ下さい。(荒天でない限り一般公開は行います。)
- 受付期間** 3月19日(土)～4月10日(日)
- 申込方法** 電話、FAX、E-mailのいずれかでお申込下さい。
その際、希望日・集合場所をお知らせ下さい。

申込、お問い合わせ先

千葉演習林ボランティア会 Abies
事務局 石川 輝雄 宛
連絡先は活動要項をご覧ください。

平成17年度の会費を納めてくださった皆様(敬称略 3/10現在 22名)

酒巻 寛友、西山 康利、原口 志津夫、岩崎 寿一、岩崎 香代子、阿倍 孝晴、米倉 義男、
佐々木 健、佐々木 文子、日高 雄二、近藤 吉一、近藤 禮子、藤田 貴樹、淵辺 文明、
石川 輝雄、青木 俊一、恵 京子、恵 彩、田生 健一、相川 美絵子、大竹 秀一、他1名

千葉演習林ボランティア通信 No.8 2005/3/15 発行

東京大学千葉演習林

〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770

TEL 04 - 7094 - 0621 FAX 04 - 7094 - 2321 E-mail chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/>

* 市町村合併により住所・電話番号が変更しました。